戦後70年

永久平和を願って 次世代に戦争体験を語り継ぎたい

私の戦争体験談❶

秘書広報課 ☎24-8801

日本がハワイ真珠湾を奇襲（昭和16年12月8日）

宣戰布告の大詔渙發
今曉 西太平洋で 米英軍と開戰す

太平洋戦争開戦を報じる当時の新聞

「あの頃はよく辛抱して、耐えてきたね」

と言っても、うなずいてくれる人はもう少ない。七十年も経ったのだから。

太平洋戦争が始まった時、私は岡田国民学校初等科三年東組であった。十二月八日、職員朝礼から先生がなかなか帰って来られない。私たちはワイワイ騒いでいたら、先生を見つけた男の子が「シーッ」と言う合図で静かになった。

教室に一歩踏み入れた先生は、後ろ手を引き戸に掛けたままで、「よう聞きなさい。アメリカと戦争が始まった。日本が先に軍艦を攻撃した」

「うわぁー、やったやった」

七十年前を思う
―人前で泣けなかった―

綾歌町　吉川　弘子さん

みんな大喜びした。それ程日本中に戦争の気運が盛り上がっていたのだ。しかし、この喜声は先生の暗い顔に、一瞬にして消えた。

先生は片山先生といって、師範学校を卒業したばかりで若く、私たち皆が大好きだった。

不意打ちを掛けたから戦況がよく、楽しい三年生を終了した。その春休み中、他校へ変わる先生の離任式に登校した。すると、片山先生が緊張した様子で校長先生の横に並んだ。

「せんせ、どこの学校へ行くんやろか」

「ちゃうわ、兵隊に行くんやわ」

元三年東組だけが騒然として、中組の怖い先生に睨まれた。校長先生は

「片山先生の出征は本校の名誉です。『片山先生万歳、万歳、万歳』」

教室に帰って、女子は皆机にうつ伏し、でも誰も泣き声は出さなかった。男子の憧れは兵隊だったから、あまり辛くはなかったのだろうか。私は誰もいない新校舎の裏へ行って泣いた。

鐘が鳴ったので、掌で顔をなでなで教室へ走っていたら、中央廊下に片山先生がいて、手を振ってくれた。とても恥ずかしかった。

「出征兵を送る時や遺骨を迎える時は、泣いたらいかん。お国の為の立派なことだから」

知らぬ間に植えつけられた鉄則であった。

日中戦争が昭和十二年開戦だったから、私たちはすでに日の丸を握って兵隊を送ったり、駅前に整列して遺骨を迎えたりしていた。

黒い喪服に白木の箱を抱いて電車から降りて来るのは、奥さんや、白髪のお母さんであったりした。電車から降りた途端、迎えの人を見ても泣き声を呑み込み、深くうな垂れて歩いた。あんなむごいことってある？

昭和十八年片山先生が戦死された。

近所の義晴さんは『七つボタンは桜に錨』海軍予科練のかっこいい服に身を固めて、先頭をしっかり歩き、後は見送りの行列が長い。私の家は道路に近いが山裾なので、道路を行く行列を長く見渡すことが出来る。

ふと見ると大きい山桃の木の下に、義晴さんのお母さんが目立たないよう黒いエプロンをしてしゃがみ込んでいる。私が。

「おばさん、早う義晴さん送って行かな」

「いいや、行ったら義晴も私も辛いきんな。ここから見送らして」

そう言ったおばさんは声を上げて泣き出した。涙が溢れるおばさんの目は、道路を行く義晴さんから離さなかった。

父方の叔母の家へ行くと、長男の新太さんの遺影が、仏壇の横に祖父母と並んで掲げられていた。

高松空襲直前の日に

滅多に行けなかった私だけど、その時はいつも叔母と一緒に、仏壇と遺影にお参りしていた。

はたちの頃の私に叔母が話しをしてくれた。

「子に先立たれるほど辛いことはないよ」と、まず前置きを。戦死の公報が来た時には、（公報が間違いだ）と自分に言い聞かせていたとのこと。

「公報から三月も経って、骨になって戻って来た新太は『ただ今』もなーんも言わへんがな、そこで初めて戦死を認めて辛かったわ」

叔母の話はなお続いた。

「弘子さん、これ見て」

両手の爪を見せられた。よく覚えていないのだが、どの爪かは指の肉と離れて、縦割れしたまま伸びていたし、他の爪も黒か紫のままで痛ましい指であった。

遺骨が帰宅した頃は、近所や親戚の人の出入りが多くて、人前で取り乱してはいけないと思ったから、裏の山へ行き松の木に向って叩いたり引っ掻いたりして泣いたのだそうだ。

この爪はもう治らないけれど、若くして逝った新太への償いだと思っているとのこと。

「この話初めて聞いて貰ったわ、良かった」

防空頭巾、今は人形にかぶせて

救急袋は、中等学校に入ると皆身につけた

ズック靴も無く、皆わらぞうりか下駄で通学

幼稚園などから、戦争体験の話の依頼があれば、家にあるハギレなどで作って見てもらっています。上から、防空頭巾、救急袋、わらぞうり。

すっきりした叔母の表情だった。

今夜のお月さんは凡そ十五歳、すっきりした顔の筈だが雲が厚い。雲は仕方ないが、戦火の煙に曇らせないよう、心して守っていこう。

平成27年度 丸亀市 戦没者追悼式

日　時　11月15日㈰
　　午前10時～
場　所　アイレックス
対象者　戦没者のご遺族
お問い合わせ
　　福祉課 ☎24-8805

戦後70周年

本紙今月号から市民の

「戦争体験記」

などを順次掲載します

秘書広報課 ☎24-8801

今年は戦後70周年の節目です。

二度と戦争を起こさないために、次世代に戦争の悲惨さを伝え、語り継いでいかなければいけません。本紙では、今月号から広報丸亀8月号で募集しました「戦争体験記」などを順次掲載していきます。

また、寄せられた手記、原稿を、上記の戦没者追悼式当日に、平和に関するパネルとあわせて展示を行います。

日　時　11月15日㈰
場　所　アイレックス ロビー